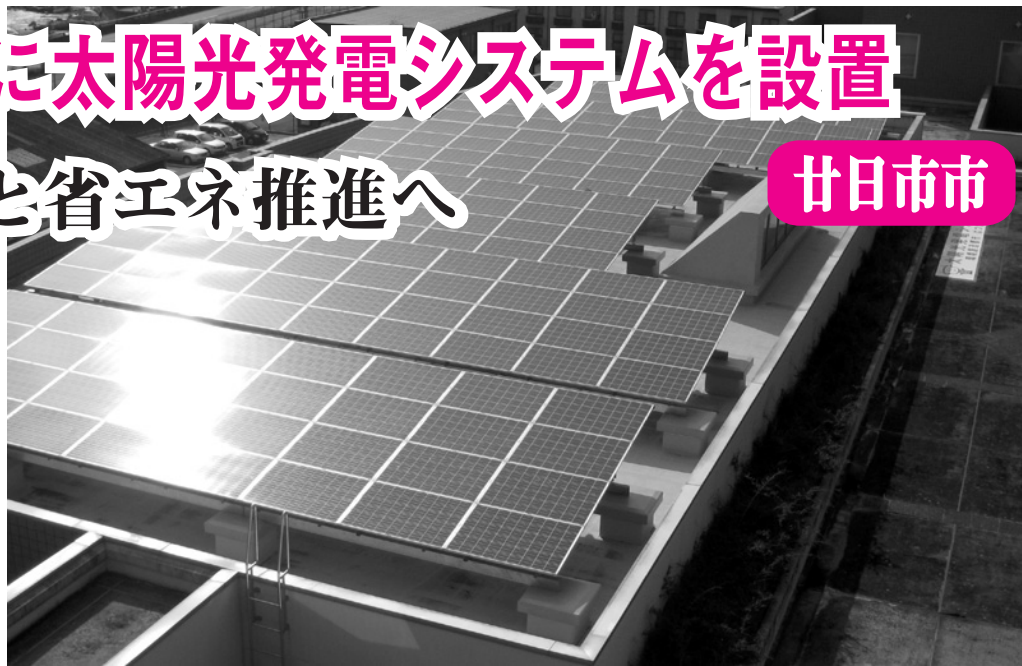


環境と健康

市庁舎などに太陽光発電システムを設置 新エネ導入と省エネ推進へ

廿日市市



廿日市市は、市役所本庁舎・文化センターに、太陽光発電システムを整備した。一階市民ホールには表示板を設置して、発電状況が即時に確認できるようにしている。

【第五次廿日市市総合計画(平成二十一年三月)に基づき策定した「廿日市市環境基本計画(改訂版)」、「廿

日市市・地域新エネルギービジョン」ならびに「廿日市市・地域省エネルギービジョン」で謳った地球温暖化対策として整備したものである。新エネルギーのひとつである太陽光の利用を「見える化」することで、新エネルギー導入の意識啓発と、省エネルギー対策を推進することを目的としている。

本庁舎に設置してある太陽光発電システムの出力は四十ワットで、廿日市内の公共施設に設置してある太陽光発電システムの中で最大の出力を持っている。得られた電力は庁舎や文化センターの照明機器等利用されている。年間発電量は平均約四万キロワット時、年間CO₂削減量は約二十五ト

想定されている。このCO₂削減量は、スギの木約千八百本の植林に相当する。「廿日市市環境基本計画(改訂版)」では、「海と緑と人が育む環境創造都市はつかいち」を基本理念とし、廿日市市における望ましい地球環境像として、「地球に暮らす一員としての自覚をもち、持続可能な循環型のまち」をつくることを目指している。

また、地球温暖化防止、省資源・省エネルギー及び新エネルギー対策を取りあげ、それぞれ、クールビズ・ウォームビズの励行、冷暖房温度は夏二十八℃以上、冬二十℃以下、グリーンエネルギー自動車導入の検討、太陽光発電導入の検討を掲げている。

廿日市市は、日照時間の比較的長い沿岸部という自然条件を活かし、これから

も太陽光発電システムなどの公共施設への導入を検討している。また、補助事業を活用して市民の導入促進もはかっている。市全体で自然エネルギー利用を高めようとしている。

今後、市全体に地球温暖化対策の取り組みが拡大していくことが期待される。(地域活動支援センター)



太陽光発電システム概要

設置場所: はつかいち市民図書館・美術ギャラリー屋上
太陽電池出力: 40^{ワット} 年間発電量: 平均約4万^{キロワット時}
CO₂削減量: 年間約25^{トン}

廿日市市役所に設置された太陽光発電システム。庁舎の西側エレベーターから全容を見ることが出来る(右上)、1F市民ホールには、発電量が確認できるモニターを設置(上)

自然エネルギー利用の普及へ

市民と協力しながら計画推進

- 1 新エネルギービジョン策定までの経緯はエネルギー対策や地球温暖化対策は今や避けて通れない課題であり、国や、県の目標に沿って廿日市市の目標や取り組みを定め、新エネルギービジョンの策定にも反映させました。
- 2 庁舎への太陽光発電システム設置のねらい廿日市市の沿岸部は日照時間が比較的長く、太陽光や太陽熱の利用に適した立
- 3 エネルギービジョンの展開と市民への対応太陽光発電システムの設置には、国や県の補助制度があるので、市民に対し引き続き啓発を行い、補助金を利用した設置の促進を図りたいと思います。
- 4 太陽光発電システムの概要左上図み参照
- 5 公衛協やはつかいちさくら協議会との関わり公衛協には、環境家計簿運動に協力していただきました。さくら協議会には、環境に配慮したクッキングの指導など、地球温暖化対策の啓発事業で協力していただいています。今後も、市民のみなさまの協力を得
- 6 太陽光発電システムの見学は事前に申し込みをいただければ見学できます。
- 7 太陽光発電システム設置の補助について太陽光発電システムと省エネルギー設備を併設する住宅が対象となります。補助金は一件につき七万円。四月末現在の申請状況は二十一件となっており、年間百五十件を予定しています。今年度の募集は平成二十四年一月三十一日までです。詳しくは市役所地域環境創造室にお問い合わせください。(電話: 〇八二九-三〇九-一四七)(地域活動支援センター)

環境と文化財保護

琴線歌

数多くの文化遺産が残る尾道市は、内陸部から瀬戸内沿岸、島嶼部まで豊かな自然環境を保有し、それぞれの歴史に培われた文化遺産を含む、美しい景観が継承されています。多島美を含む港町の景観や映画などの口け地にもなった歴史的建造物が建ち並び「坂のまち」の景観、島の斜面に柑橘畑が広がる柑橘の島の景観など多様な文化と景観が尾道市にはあります。

▼尾道市では、こうしたさまざまな文化遺産や美しい景観を今後とも継承し、市民が健康で文化的な生活を営んでいくため、平成十七年に「尾道市環境基本条例」を制定し、さらに施策を展開するために「尾道市環境基本計画」を策定しました。環境目標として、「歴史と文化とるおいがあるまち」を目指し、まちの

(尾道市長 平谷裕宏)



環境と保健の未来をめざして

財団法人 広島県環境保健協会

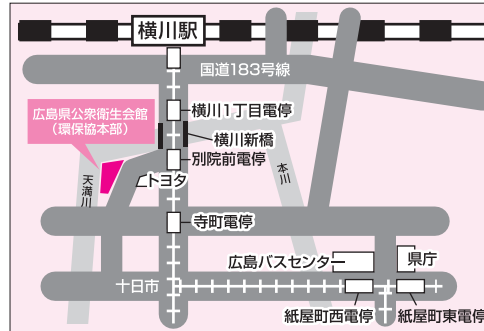
〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)

TEL:082(293)1511 [大代表]

FAX:082(293)1520

かんぽきょう

検索





平成22年度広島県公衆衛生大会で行われたお楽しみ抽選会

事業を展開していく。具体的な取り組み内容は、「電気」・「ガス」について、九月の約一カ月間での家庭における省

ガスの使用量は、毎月届く「使用量のお知らせ（請求書）」によって把握でき、前年同月の記載があるので、比較が

で報告し、今後の普及活動につながる。将来は、このエコチェック事業を年間を通じて継続でき

るものとするほか、電気・ガスを削減する意識を高めてもらうことにつなげたい。

今年度は緑色のエコチェックカード

見える化で省エネ展開

一人のエコチェック事業

今年度も、「できるだけ多くの公衆衛生推進委員が省エネ活動に参加し効果を数値で見える化する」を目標に

エネ活動の実践。取り組んだ成果は、前年同月分の使用量との差により、削減量として評価する。一カ月間の電気や

容易である。削減結果は、公衛協単位で集計し、十一月に開催する第

を削減する意識を高めてもらうことにつなげたい。

今年度は緑色のエコチェックカード

「節電からはじめよう！脱温暖化」テーマに出前講座

自ら取り組むエコ活動を宣言！



ることを知った。今日からすぐに行動したい」といった声が聞かれた。

また、自転車発電体験、各種エコ電球の比較実験やエネルギーの使用実態をまとめたパネルの展示などを行った。自転車発電体験では、来場者自らが自転車をこいで四つの家電製品（かき氷機、扇風機、白熱電球、ジュースミキサー）を順に稼働させ、発電にどのくらいエネルギーが必要かを体験した。

子どもたちからは「一度にたくさん電気を使うと発電が大変なことだった。どうしてCO₂が発生するのか」がわかった」といった声が聞かれ、節電の大切さを実感した。

地球温暖化防止や東日本大震災に伴う緊急節電の影響もあるようで、来場者の意識が高く、各ブースで熱心に質問する姿も見られ、大会は盛況のうちに終了した。

（地域活動支援センター）

環境月間の恒例行事として、六月五日（日）に「環境の日」ひろしま大会が県庁前広場で開催された。主催は、広島県、広島市、ひろしま地球環境フォーラム、財団法人広島県環境保全公社、当協会が構成する大会実行委員会。企業、各種団体、行政などが出展するブースやさまざまなステージイベントを通して、広く県民にエコ意識の高揚と実践が呼



エコ講座は、実験やふろしき包みなどをおりまぜ、楽しく学べるプログラム（左上）、自転車発電に試みるが、ジュースミキサーを動かすのに苦戦する参加者（右下）

「環境の日」ひろしま大会

びかけられた。

当協会の地域活動支援セン

ターは、「節電からはじめよう！脱温暖化」をテーマに、

「二〇万人のエコ講座」の出前講座を中心として、体験

コーナーや展示を行った。

エコ講座では、訪れた人が省エネ、省資源の学習やふろしき講座などを体験。受講した親子からは「簡単に取

ることを知った。今日からすぐに行動したい」といった声が聞かれた。

また、自転車発電体験、各種エコ電球の比較実験やエネルギーの使用実態をまとめたパネルの展示などを行った。自転車発電体験では、来場者自らが自転車をこいで四つの家電製品（かき氷機、扇風機、白熱電球、ジュースミキサー）を順に稼働させ、発電にどのくらいエネルギーが必要かを体験した。

子どもたちからは「一度にたくさん電気を使うと発電が大変なことだった。どうしてCO₂が発生するのか」がわかった」といった声が聞かれ、節電の大切さを実感した。

地球温暖化防止や東日本大震災に伴う緊急節電の影響もあるようで、来場者の意識が高く、各ブースで熱心に質問する姿も見られ、大会は盛況のうちに終了した。

（地域活動支援センター）

一人の食チェック事業

食生活改善の入り口

県内約一人の公衆衛生推進委員が、自らの食習慣の現状を食チェック・把握すること、健康づくりに向けた食生活の改善につなげることを目的とした事業。昨年度まで実施してきた「食のチェック事業」を刷新する。

（呉市）で開催する「第

1日の摂取食品数を記録

公衆衛生推進協議会
1万人の食チェックカード

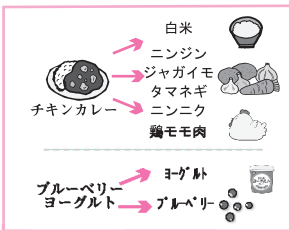
2011年6月19日（日）～25日（土）

食事で摂取した食品数を記入しましょう。

日付	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日
1日の食品数	25						

数えてください。

① 数える時に困った食品はありましたか？



例えばこんな食事をすると...



<食品を数えるときの留意点>

- 目玉焼き、卵スープなど、同じ食品は、何回食べても「卵」の1品目として数える。
- 外食や市販の惣菜などの調理済み食品は、わかる範囲で数える。
- ちくわ、こんにやく、はんぺん、つくね、がんもどき、ウインナーなど加工品は、それぞれ1品目と数える。
- 原材料が同じものでも、異なる製品の場合はそれぞれ1品目として数える。
- 次のような場合は、食品として数えない。
 - 摂取量が極端に少ない食材
 - 調味料や香辛料、油脂類
 - お茶
 - コーヒー、アルコール類、清涼飲料水などの嗜好飲料
 - 菓子やデザート
- このほか、細かい部分は、ご自身で数え方（ルール）を設定しても構わない。
- 調味料のうち、味噌・ドレッシング・焼肉のたれ・ケチャップ・マヨネーズ・タルタルソースは数える。

6月19日から1週間の強化期間

毎月19日は定例チェックデー

一人の食チェック事業 取組みスケジュール	6月19日（日）～25日（土）	①「強化期間」 食品数チェックの実践・食チェックカードの記載（7日間）
	7月1日（金） 締切	チェック終了後、『食チェックカード』を事務局で回収。 報告書に実績を記入し、環保協へ提出
	7月7日（木） 8日（金）	第50回環境保健夏季大学（宿泊研修）に食チェックカードを持参 「食チェック事業おたのしみ抽選会」の実施
	7月19日以降 毎月19日	②「定例チェックデー」 各自の「2011公衆衛生推進手帖」へ記入

広島発・瀬戸内海美化大作戦

3つのテーマで全県取り組み

おいても、間接的に生活の中で瀬戸内海の恵みを享受している。「広島県の財産を守る活動に取り組む」「地域美化に貢献する」ことを目的に、本事業に取り組んでほしい。

<支援グッズ紹介>



『瀬戸内海学習オリジナルテキスト』フルカラー 12ページ 小学校高学年向け

※ここで紹介した提供グッズは一部です。詳しくは、実施要領・実施申請書にてご確認ください。

わたしたちの財産である「瀬戸内海」の環境保全美化活動を全県的に取り組むことで、子孫にすばらしい環境を残すことを目的に展開する。

活動内容は、「地域清掃・美化」「水質改善・水質保全」「里地・里山づくり」の3つのテーマがあり、一斉清掃や不法投棄撲滅運動、花いっぱい運動、生活排水の学習会など、地域の実情に合わせて活動を選択する。

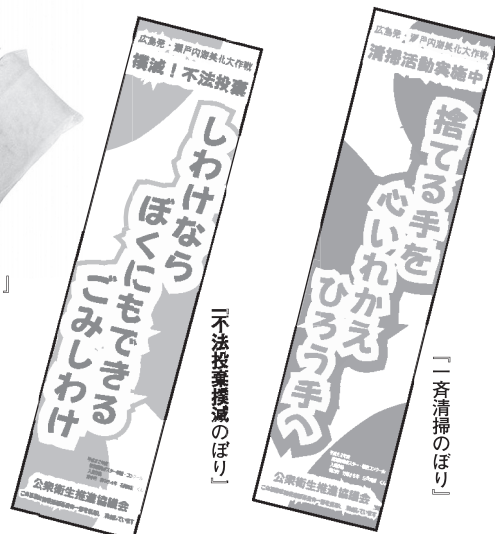
これらの活動を促進させるためのグッズとして、「アドプトサイン」「花の種」「一斉清掃、撲滅PR用のぼり」「台所用水切りネット」「瀬戸内海学習オリジナルテキスト」の配布を予定しており、活動内容に応じて提供します。



「油吸着材 吸ったらポイ」



『台所用水切りネット』



のぼりサイズ 1800mm×450mm

重点メニューは、市町公衛協単位だけでなく支部・地区・学区公衛協で実践できるプログラムである。平成二十三年から、全県共通重点メニューとして新たに三事業がスタートした。新事業の「広島発・瀬戸内海美化大作戦」「万人の食チェック事業」「万人のBESTチェックキャンペーン」と、昨年に引き続き実施する「万人のエコチェック事業」「公衛協発ウォーキング事業」についてを紹介する。

なお、事業実施に係る申請・報告等の様式は、環境協ホームページ (<http://www.kanhokyo.or.jp>) からダウンロードが可能。問い合わせは地域活動支援センターまで。(電話：〇八二二九三一一五二二)

平成23年度 重点メニュー紹介

一人のBESTチェックキャンペーン 年間を通じて活動展開へ

県内約一万人の公衆衛生推進委員を対象に実施する事業で、「B：環境美化(BEST)活動」「E：エコ(ECO)チェック」「S：食(SHO)品数チェック」「T：公衆衛生推進手帖(TOUCH)の活用度チェック」について、年間を通じて総合的に環境美化

(B)は、重点メニューの「広島発・瀬戸内海美化大作戦」や昨年度までの重点メニュー「アドプトNETひろしま」など、公共空間の美観の確保につながる活動の実施状況を調査する。エコチェック(E)は重点メニュー「万人のエコチェック事業」を、食品数チェック(S)は前述の「万人の食チェック事業」におけるチェックを要する。公衆衛生推進手帖の活用度チェック(T)では、二〇一二年に、二〇一二年

BESTチェックキャンペーンスケジュール

平成23年	6月～	全県共通重点事業重点メニューの実施 推進手帖を活用した重点メニューの継続実施
	12月	2012 公衆衛生推進手帖頒布 公衆衛生推進手帖活用度調査アンケート配布
平成24年	1月	公衆衛生推進委員によるアンケートの記入
	2月	アンケート用紙の提出(市町公衛協事務局)
	3月～	集計・2013 公衆衛生推進手帖製作に反映

公衛協発・ウォーキング事業

「らしさ」を出したルートで楽しく健康に

生活習慣の改善、定期的な運動として最も身近で取り組みやすい運動、それがウォーキング(徒歩)である。

「公衛協発ウォーキング事業」は、公衛協が主体となつたウォーキングで、平成二十二年から重点メニューに加わった。

この事業では、公衛協によるウォーキングの実践状況に応じて二つのコースを設けている。一つの「オリジナル事業実践コース」は、これまで公衛協が主催してきたウォーキング事業や歩け歩け大会などが対象である。一方「環境点検コース」は、歩くルートを選定し、その中で散乱ごみや水辺環境など、気になる

場所や公衛協活動に関わる場所などをチェックポイントに設定。参加者は「見る、聴く、嗅ぐ、味わう、触れる」の五感を使いながらポイントを点検し、評価する。

公衛協発ウォーキング事業を実施する公衛協へは、支援グッズとして「ナップサック(一団体に付き二十個)」と「歩数計(一個)」を提供するほか、必要に応じてベスト・腕章の貸し出しを行う。市民・市民の健康づくりのため、参加者の安全に十分配慮しながら、ぜひ多くの公衛協でこのウォーキング事業を実施してもらいたい。

(本紙四面に活動事例を紹介)

<支援グッズ紹介>



歩数計(右上)申請につき1個を配布。ベスト(上)腕章(右)はスタッフの目印にちょうどよい貸し出しグッズ



ウォーキング事業のキャラクター「あるくゾウ」

食の安全・安心をめざした「広島県食品自主衛生管理認証制度」

食の安全・安心に対する社会的評価が高まります

- ①消費者から自主的な衛生管理の取り組みへの努力が評価されます。
- ②第三者機関が認証することで客観的に評価され社会的信用が得られます。
- ③食中毒などの発生リスクが低減します。
- ④大掛かりな設備投資をしなくても衛生水準が上がります。

※右表は当会がこれまでに認証した施設名(平成22年3月31日現在)



〇問合せ先〇
〒730-8631 広島市中区広瀬北町9-1 (財) 広島県環境保健協会
環境生活センター分析課 TEL: 082 (293) 1514 (ダイヤル) FAX: 082 (293) 8010

カキ作業場(2類)	クニヒロ株式会社 占部水産株式会社 有限会社北吉水産 株式会社ヒロシヨク 倉橋島海産株式会社 マルヒロ水産株式会社 広島県漁業協同組合連合会 株式会社大久加工事業部 株式会社オオノ	加工のり製造業	株式会社やま磯 株式会社三國屋戸内工場 広島海苔株式会社海田工場 丸徳海苔株式会社
弁当・そうざい製造業	株式会社あじかん 株式会社フレッシュセブン本社工場 株式会社フレッシュセブン第二工場 株式会社フレッシュセブン第三工場 わたやごちそうデリカ	菓子製造業(洋生菓子)	パッセンモーツアルト 株式会社やまだ屋
煮豆・佃煮製造業	宝山食品工業株式会社	菓子製造業(和生菓子)	株式会社藤い屋本店工場 株式会社藤い屋広島支店工場 株式会社やまだ屋本店工場 株式会社やまだ屋大野工場 株式会社藤い屋本店店舗実演コーナー
GPセンター	全農広島鶏卵株式会社 三次GPセンター 世羅GPセンター	菓子製造業(その他)	株式会社藤い屋広島支店工場 株式会社やまだ屋本店工場 株式会社やまだ屋大野工場 パッセンモーツアルト



昨年度採択された助成事業で、園児たちに環境問題について紙芝居で説明（福山市泉学区公衛協）

地域活動支援基金活用事業

9事業に助成決定、コンクールは19公衛協が実施

北広島町、竹原市が事務局活性化事業に参加

「地域活動支援基金」活用事業は、平成二十年度にスタートし、今年で四年目を迎える。「地域活動支援基金」は「地区衛生組織の実践活動に対して必要な経費を支援するために積み立てているもの。活用事業は公衛協の環境と健康をテーマとした活動を支援すること、住み良い郷土建設に貢献することをねらいとしている。

活用事業では大きく三つの事業を展開している。

一つは、公衛協が実施する「コミュニティ活動に対して、財政的な支援を行う『環境と健康のコミュニティ活動助成事業』。助成方法には二種類あり、市町公衛協を対象に発展性が見込まれる活動に対して、上限五十万円を助成する『発展型』と、市町・支部・地区・学区公衛協を対象として「コミュニティづくりのきっかけとなる活動に一律十万円を助成する『導入型』がある。

今年度は、四月から募集を行った結果、発展型二件、導入型七件の申請があり、五月二十三日に開催した第三回地域活動支援基金運用委員会審査した結果、「一部の団体は計画のさらなる具体化が必要

要」など条件がついたものの、申請のあった九事業すべてが採択された。

【発展型】助成額二十万円

「世羅町」環境と健康「環境トリップツアー」の企画募集事業（世羅町公衛協）、助成額五十万円「脱温暖化出前講座推進事業」（福山市公衛協）

【導入型】助成額一律十万円

「風呂敷でマイバッグ」（江田島市公衛協）、『実践的な公衆衛生活動の推進』（竹原市公衛協）、「環境ボスター」の活用（大崎上島町公衛協）、北広島町笑顔で取り組む脱温暖化のまちづくり事業（北広島町公衛協）、『子育てとの協

働による「ミステーション」への環境標語設置（福山市道学区公衛協）、「学社融合」ゴーヤカーテンで温暖化を防止（ゴーヤ）（ふせ）（や）（福山市泉学区公衛協）「蓮池川（吉田川水系）整備・清掃活動」（福山市西深津学区公衛協）

なお、採択された公衛協は、来年二月末までに活動を終了し、報告書を当会へ提出する。地域活動支援基金運用委員会では、これらの報告を事例集にまとめ、全県の公衛協に配布するほか、研修会などで活用する予定である。

活用事業二つ目は「環境啓

公衛協活動研究セミナー

公衛協活動研究セミナーは、当会職員が県内各地に出向き、そのエリアの推進委員や地区会長を対象に、公衛協活動についての基礎研修や実践活動などを紹介しながら、公衛協活動を支援していくもの。本事業は今年で六年目を迎えたが、活動支援が均一に展開できない、あるいは事業へ参加する公衛協が固定化するなど

（開催エリア別テーマは左表参照）

公衛協活動研究セミナー開催日程

● 北部エリア（庄原市 高原の家七塚）

開催済 5月20日（金）・・・地区衛生組織活動概論
6月17日（金）・・・BESTチェックキャンペーン
11月22日（火）・・・七塚万葉めぐり
2月24日（金）・・・企画づくり研修

● 東部エリア（福山市 広島県環境保健協会 東部支所）

開催済 5月13日（金）・・・地区衛生組織活動概論
開催済 6月10日（金）・・・BESTチェックキャンペーン
10月14日（火）・・・七塚万葉めぐり
1月20日（金）・・・企画づくり研修

● 廿日市エリア（廿日市市 廿日市市民活動センター）

開催済 5月26日（木）・・・BESTチェックキャンペーン

● 呉エリア（未定）

10月頃予定 ・・・広島発・瀬戸内海美化大作戦など

エリア別にテーマを設定

個別相談窓口としての機能を充実

高原の家七塚の周辺を三十分程度散策し、季節に応じた見所を観察する。その後、毎回異なるテーマで、講義や実習などを実施する。

庄原市にある「高原の家七塚」にて開催。定例のプログラムとして、まず自然豊かな



昨年の11月に広島県公衆衛生大会の席上で表彰された子どもたち

発ボスター「標語コンクール」この事業は、公衛協のテーマのひとつである学社融合の取り組みを促進することをねら

いとして、小・中学生から環境啓発ボスターと標語を募集するといふもの。今年度は十九公衛協の参加となった。

今年度も「地球温暖化を防ごう」をテーマにボスター及び標語の作品を募集。小・中学校から提出される作品は、各市町公衛協の一次審査で入選作品を決定する。公衛協から推薦された作品は、当会設置の選考委員会において二次審査を実施。部門別に最優秀賞、優秀賞、奨励賞を決定する。また、最優秀賞者は、十一月十日の第五十二回広島県公衆衛生大会へ招待し、大会の席上にて表彰する。入選作

◆東部エリア

組織の強化とリーダーの育成をねらいに、市町公衛協に限らず、学区や地区公衛協など「コミュニティ単位」の公衛協支援を行う。脱温暖化に向けた取り組みに高い関心が向けられていることから、脱温暖化に関する最新情報について学習するほか、重点メニューの事業説明など、情報提供や体験交流を行いながら、推進委員のスキルアップを重点的に支援する。

◆廿日市エリア

廿日市市全域と大竹市の推進委員を対象に、五月二十六日にBESTチェックキャンペーンをテーマに開催した。初めてのエリア開催にもかかわらず総勢二十一名が参加。セミナーでは、今年度新規に展開する「一万の食チエック事業」や、広島発・瀬戸内海美化大作戦」に対して関心が高く、実施していく上での質問や意見が多数寄せられた。

◆呉エリア

呉エリアもまた今年度新たな



BESTチェックキャンペーンで手帖を手に取り説明を聞く推進委員（廿日市エリア）

に開催するエリアで、呉市のほか、東広島市、竹原市、大崎上島町、江田島市、熊野町、府中町、海田町、坂町を対象として参加を呼びかける。瀬戸内海に面している市町公衛協が多いことから、広島発・瀬戸内海美化大作戦やアドプトNETの事例紹介などをテーマに、十月頃に開催する予定である。

◇

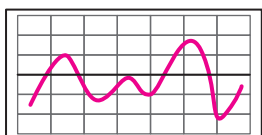
いずれのエリアでも公衛協活動に役立つテーマ・内容を盛り込んだ事業を紹介しながら、公衛協個別相談窓口としての機能を充実させていきたい。

（地域活動支援センター）

水質検査のご案内

井戸水・山水などを安心してお飲みになりたい方へ

広島県では、1年に1回水質検査を行うことを推奨しています。



検査

適合

不適合

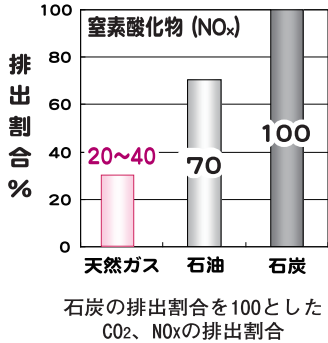
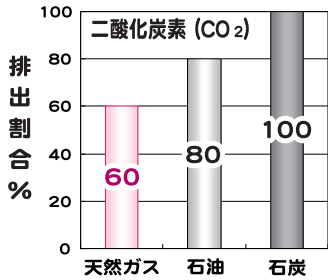
相談

問題解決

再検査

検査項目・搬入方法等詳細についてはお気軽にお電話ください ☎ 082-293-0163

HIROSHIMA ENVIRONMENT & HEALTH ASSOCIATION
財団法人 広島県環境保健協会
（水道法に基づく厚生労働大臣登録検査機関）
広島市中区広瀬北町9番1号



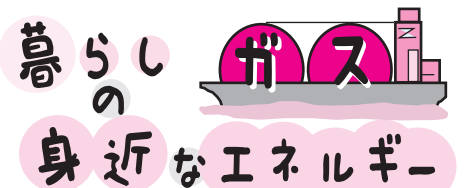
石炭の排出割合を100とした
CO₂、NO_xの排出割合

ご家庭の台所やお風呂、最近では浴室内の暖房・衣類乾燥や空調、発電にまでご利用

クリーンなエネルギーへ転換 石炭から石油、そして天然ガスへ

では、天然ガスはどのような都市ガスになるのでしょうか。天然ガスは通常、地底の奥深いところにあるガス田から採掘されます。日本では一部国産のものもありますが、ほとんど(約九十%)を海外からの輸入に頼っています。主な産地としては、ロシア、イラン等の中東、アメリカ、インドネシア、オーストラリア等があります。産地で不純物を除去し、マイナス百六十二℃という極低温に冷却液体(これをLNGと呼びます)にして、専用タンカーで

いただいている都市ガスの原料は、過去から三度大きく様変わりしてきました。日本では最初の都市ガスの原料は石炭でした。明治初期、石炭を蒸し焼き(乾留という)して出てくるガスを都市ガスとして利用したのが最初です。終戦後には石油系の原料に変わり、最近では天然ガスが主流になっています。いずれも化石燃料の一種で、燃やすと二酸化炭素(CO₂)のほか窒素酸化物や硫黄酸化物などが発生します。天然ガスは、石炭や石油に比べて地球温暖化の原因の一つとされるCO₂の排出量が最も少ない等、クリーンで環境や人に優しいエネルギーです。(左図参照)また、可採年数も約六十年以上と言われ、新たなガス田等も発見される中、世界各地で確保が可能となっています。



広島ガス株式会社 広報環境部
環境担当 番野哲夫

2 都市ガス原料の変遷

ウォーキング事業 取り組み事例

公衛協が主体となり、身近な健康づくり運動として歩くことを啓発する「公衛協発ウォーキング事業」。昨年度は、県内十九地区で事業が実施された(受付分)。今回は、その中から「環境点検コース」の事例をいくつか紹介する。

◆ウォーキング×ごみ拾い
／世羅東地区



野に咲くランバンダーを眺める
(世羅東地区)



広島ガス廿日市工場

日本各地の都市ガス工場に運ばれてくるのです。(広島県内では、廿日市市に都市ガス工場があります。)工場では、海水やお湯を使ってLNGを気体に戻し、更に燃やしたときの熱量を一定にするためにLPガスを加えて都市ガスを製造します。できたガスは無色無臭なので、最後に万が一ガスが漏れても素早く気付かれるようにわざと臭いをつけて、皆さまの家までガス管で届けられます。

環境点検からはじまる健康づくり 県内各地で公衛協らしさを盛り込んで

散乱ごみ拾いを苦とするのではなく、季節ごとにルートを変え、花や景色を愛でながら歩くことで、健康づくりの一助となったという。また、同町公衛協では、地元についての知見を広(ひろ)げるという意味を込めて「ひろひろウォーキング」も展開している。



歴史的文化財に触れる
(廿日市市大野)

まず、ネーミングにこだわった世羅東地区の「ひろひろウォーキング」。ひろひろとは、ごみを拾(ひろ)いながら、という広島弁で、ごみがない美しい景観を楽しみながら歩く、という意味から命名された。毎月一回

◆入念な下見が成功のもと
／廿日市市大野
廿日市市大野では、推進委員やその家族など九十名以上が参加し、環境点検ウォーキングを実施。不法投棄や危険箇所、地域の史跡探訪、そして地球温暖化についてのクイズ出題など、盛りだくさんの

チェックポイントを巡った。事前の下見や所要時間を計測していたことで、計画どおりに進み、結果参加者も満足したイベントになったという。



ウォーキングのあとに地元の旬の食材あてクイズをしながら味わう
(北広島町)

五感・視・聴・嗅・味・触の中で、ウォーキングと結びつきにくい「味覚」を生かして取り組んだのが北広島町である。「笑」きたひろ八力条実践ウォーキングと旬(しゅん)を楽しむ会」と題した事業では、地元農家の話を聞き、旬

の食材を確認しながら地球温暖化について考えた。ゴールの公民館では、地元の旬の食材が十六種類も入った二種のカレーを振る舞い、歩いた後の疲れを吹き飛ばす美味しさだったそう。

紹介事例は一部だが、どの事業も公衛協らしさがうかがえる。今後も、地域の環境点検とウォーキングの結びつきが生む健康づくりの拡がりに期待したい。

(地域活動支援センター)

みんなの助っ人！ 環境 カウンセラー

62 環境カウンセラー
ひろしま

現在、広島県内には百十三名の環境カウンセラーが登録されています。基本的には、環境カウンセラーは個人で活動をされていますが、県単位などでネットワーク

ネットワーク組織として、平成十一年一月十一日に設立された任意団体です。現在、広島県内の環境カウンセラーの希望者と、広島県内で活動している県外登録カウンセラーの約百名が会員として活動しています。

◆活動内容
ネットワーク組織として、平成十一年一月十一日に設立された任意団体です。現在、広島県内の環境カウンセラーの希望者と、広島県内で活動している県外登録カウンセラーの約百名が会員として活動しています。

◆今後について
カウンセラーは毎年新たに登録され、平成二十二年の新規登録者は五名でした。そのうち一名は前述の「ひろしま環境大学」卒業生です。今後も各事業を通して、環境カウンセラーのPRとともに仲間づくりを行っていきたく思います。

また、カウンセラー相互の意見交換や研鑽の場を設け、カウンセラー自身のレベルアップを図れるよう、運営を行っていきます。

◆環境カウンセラーへの問い合わせは、環境カウンセラーひろしま事務局「環境協」(〇八二二九三一一五二二・担当：住田)まで

研修会の主催で仲間づくり 情報交換でレベルアップも

会員相互の情報交換と各種事業の企画・協議をする場として、「定例会」を開催しています。二カ月に一度、広島県公衆衛生会館を会場として実施していますが、今後は東部地区での開催ができるよう準備を進めていく予定です。また、環境問題に関心のあ

延べ四百五十名を超える看板事業となっています。今年度は八月頃に募集し、九月から三月までの七回シリーズで実施する予定です。

その他、地域で環境学習を行う際の講師紹介も行っています。ご要望に応じて講師を紹介いたしますので、お気軽にご

職場環境は快適ですか？

作業環境測定業務【ホルムアルデヒド編】

特定化学物質障害予防規則が改正され、平成21年3月から医療機関などで使用されているホルムアルデヒド(ホルマリン)について、作業環境測定を行う必要があります。当会は、広島県の登録機関として作業環境測定を行っております。お気軽にお問い合わせください。

〇問合せ先〇 〒730-8631 広島市中区広瀬北町9-1
(財)広島県環境保健協会 環境生活センター 環境調査課
TEL: 082 (293) 1511 (大代表) FAX: 082 (293) 5049 URL: <http://www.kanhokyo.or.jp/>





初夏は草木がいつせいに成長する季節です。一日を待たずに、時間単位で成長するような気がします。そのすごい野生の生命力を山野草料理にしたり、山野草茶にしていたら、山草茶という人間の趣味について紹介しようと思



道の駅や趣味の店で、スギ



ミツバアケビ (上)、クワ (中)、カキ (下左)、クマザサ (下右)

効能に応じてブレンド 試飲しながら健康に

初夏は草木がいつせいに成長する季節です。一日を待たずに、時間単位で成長するような気がします。そのすごい野生の生命力を山野草料理にしたり、山野草茶にしていたら、山草茶という人間の趣味について紹介しようと思

今は、クワ、カキ、アケビ、カキドワシ、スギナ、ササ、クコ、クロモジ、ネムノキなどが採取の最盛期です。それぞれ、今年伸びた新芽の部分をハサミで切るとよいと思います。所有者のある山野で勝手に採ることはいけません。大体が邪魔になるものが多いので持ち主に了解を得て採取すればOKだと思います。とはいっても、木や草がなくなるまで採ることは慎みたいと思います。

持ち帰ったものは、種類ごとに三つぐらいに切って新聞紙に包んで陰干しにします。どんな種類でも一週間干せば大丈夫です。乾燥したものをオープンまたはフライパンで茶色になるまで煎ります。お茶パックに詰めて、やかんで三十分沸騰させたのちに飲みます。

陰干しするときも煎るときも、種類ごとに処理してください。煎った後に高血圧にいいもの、糖尿病にいいもの、利尿作用のあるもの等をブレンドして用いたり、味のよいものを中心にブレンドしたりして利用されたいと思います。

以上は、各自で試しながら研究されることをお勧めします。美味しい山野草茶を研究する過程で、各人が健康になられると思います。

(NPO法人七塚原自然体験活動研究センター)
理事長 西村 清巳

自然界の旬

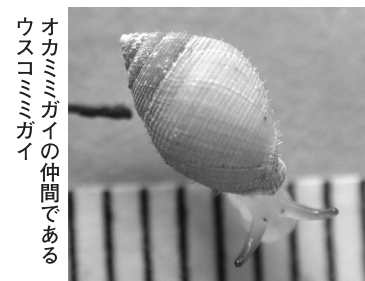


②4 山野草茶を楽しもう

ナ茶、カキ茶、クワ茶、ササ茶、クコ茶、トチュウ茶などを単体で売っていますが、それぞれ癖がありますので、これらのいくつかをブレンドして飲むとまろやかな味になります。

意外な 野外の ガイドス ～海の生きもの編～

② オカミミガイ類



オカミミガイの仲間であるウスコミミガイ

海辺にカタツムリの仲間がすんでいることをご存知の方

乾燥に弱く特異な環境に潜む 私たちを見捨てないで

約十数種類の有肺類が知られています。カラマツガイ類は潮の満ち引きで水中に沈んだり、空気に触れたりする岩場のうち、やや長く海中にある岩の上などに生息し、オカミミガイ類は河川の河口付近、

せん。また、生まれてしばらくは海水中を漂いながら成長するので、海辺から離れることができません。

古来、人は河口部に広がる平野部を中心に住居を構え、大雨による洪水、台風による

多くの海辺は農耕地や工場地帯などに姿を変えてしまっています。このような環境の変化は、オカミミガイ類の生息場所を減らし、個体の減少をもたらしました。

今年三月に東日本を襲った

(環境保全課 有吉 英治)



オカミミガイ類の生息地 (山口県)

は意外に少ないかと思われる。カタツムリはエラを持たず、空気から酸素を吸収できる肺を持っていることから、有肺類と呼ばれています。瀬戸内の海辺では、カラマツガイ類やオカミミガイ類など、

地盤が高く満潮時でもめったに海水を被らないアシ原のまわりの枯葉が積もった所や、砂泥地の朽木・石の下などにすんでいます。このオカミミガイ類は陸上生活を送るカタツムリほど乾燥に強くありません。

高波などから命や財産を守るため、海辺に防波堤を築いてきました。また、戦後の復興期から高度経済成長期には農業生産の増大や工場立地のため、干潟やアシ原、遠浅の海が埋め立てられ、

山口県の秋芳洞で、洞内の照明がLEDに改修されました。従来の照明の光や熱の影響で繁茂していた藻類などによる鍾乳石の汚れを、LEDにすることで少しでも軽減しようという対策です。光がない場所に照明を常設すると、光合成を行う生物による照明植生が発達し、洞窟内の生態系に多大な影響をもたらします。光や温度を変化させる行為は、造成や埋め立てのように目立つ行為ではありませんが、実は大きな自然破壊なのです。

照明植生の代表種に、藍藻類(シアノバクテリア)があります。藍藻類は、さまざまな環境

に多くの種が存在し、鍾乳洞では糸状のユレモ科の一種が、炭酸を石灰質に変えながら鍾乳石とともに生長しています。実は20億年以上も前、これと同じ作用で地球に大きな影響を与えた藍藻類がいました。かつて酸素のなかった地球では、嫌気性バクテリアのような、酸素を使わない生物が繁栄していました。そこに現れた藍藻類は盛んに光合成をして、猛毒の酸素

いきものを まもる

②4 ストロマトライト

を発生させ、結局、それを利用する新たな生物に食べられてしまいます。この自然破壊と絶滅の痕跡は、ストロマトライトという化石として残されています。

この歴史は、人間の環境保全という行為に懐疑をもたらす事実でもあります。もし、酸素を嫌う生物が人間のような知恵を持って、酸素の発生を阻止するという環境保全を行っていたら、人間は生まれてこなかったことになるからで

す。それでも私たちは、自分たちが住みやすい地球を守りたいと願っています。

このシリーズも最終回を迎えることとなりました。

これまで身近な生物や、貴重種をテーマに“いきものをまもる”ことを考えてきました。それは、他の生物のためではなく、ヒトという種が生き残るための行為だということを、自覚しておかなければなりません。私たちは、変化し続けている地球の歴史を止めてまで、現状を維持しようとしているのです。

(環境保全課 半田 信司)
(このシリーズ終わり)



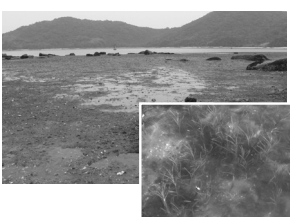
ユレモ科の一種の顕微鏡写真(鞘のまわりに石灰質を沈着させている)

生物調査事業

さまざまな人間活動や生活様式の変化により、近年地域の生物が減っています。豊かな自然は私たちの暮らしにとってなくてはならないものです。当協会では、身近な自然を知り、大切な生き物を守るための生物調査事業を行っています。

地域の自然を知る

陸上生物・水生生物・海域生物調査



大切な生き物を守る

野生動植物保全対策調査



失われた自然を取り戻す

自然再生計画立案・実施



実施の枠組み

住民や行政・事業者の自然との共生の取組みを生物保全の専門家としてお手伝いします。

住民 → 自然との共生 ← 行政・事業

(財) 広島県環境保健協会

問い合わせ：
財団法人広島県環境保健協会
環境生活センター 環境保全課
電話：082-293-1580 (ダイヤル) FAX：082-293-5049

* その他、会員制PETドック、政管・健保ドック、特定健診を実施できます。詳細はお気軽にお問い合わせください。

地元住民を対象に自然観察会

マップ教材にマツバウンランや鳥の巣など

環保協

五月七日、当協会は、活動拠点（広島市中区広瀬北町）に面した天満川周辺で『自然観察会』を開催した。これは、地元の広瀬北町一区町内会の住民を対象に、社会貢献活動の一環として初めて開催したもので、親子連れなど三十人が参加し、植物や野鳥の観察を楽しんだ。



ヒナギキョウを観察する参加者（背面は当協会の建物）

◆再生エネルギー原発を逆転

米シンクタンク「ワールドウォッチ研究所」によると、原発は、安全規制が厳しくなったことや建設費用の増加で1980年代後半から伸び悩み、2010年の発電容量は3億7,500万kW。

一方、再生可能エネルギーは地球温暖化対策で注目されて急激に増加し、風力と太陽、バイオマス、小規模水力の合計は3億8,100万kWになり、初めて原発を上回った。

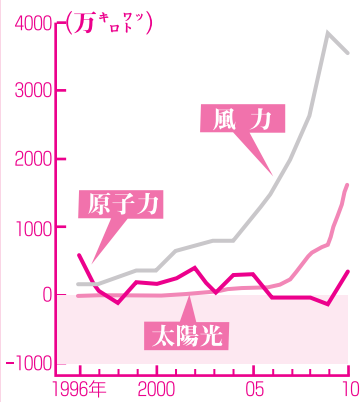


報告書は、福島第1原発事故の影響で廃炉になる原発が多くなり、新設は大幅には増えず、再生可能エネルギーとの差はさらに開くとみている。

報告書によると4月1日現在、世界で運転中の原発は30カ国で437基。運転開始から平均で26年が経過し、このうち145基は、2020年までに運転開始から40年を迎える。福島第1原発事故の影響で、40年を超えて運転する原発は限定的になるとみられるという。建設中は14カ国で64基。中国などで今後、新たに建設される分を見込んで、世界の原発の総数は減少するという。

報告をまとめたマイクル・シュナイダー氏は「原子カルネサンスで原発が増えると思っていたら、それは間違い。40年を超える運転を認めても、いずれ数は減ることになる」と指摘している。世界の総発電量は、石炭、天然ガス、石油などの火力発電が半分以上を占め、原発は13%程度。

発電容量の増減の推移



※前年比、ワールドウォッチ研究所による

当日は、植物や野鳥に詳しい当協会職員が講師役を務め、先頃発行した『環保協（かんほきよう）発 天満川・自然観察会』を教材にした。これは、地元の広瀬北町一区町内会の住民を対象に、社会貢献活動の一環として初めて開催したもので、親子連れなど三十人が参加し、植物や野鳥の観察を楽しんだ。

また、野鳥については、残念ながらチュウシヤクシギなど数種類しか観察することができなかったが、その中で参加者が興味を持ったのは、木の枝だけではなく針金のハンガーが使われていたカラスの巣。都市部ならではの光景に、参加者は双眼鏡を使って真剣に観察していた。

参加した広瀬北町一区町内会長の吉森蔵さんは、「とても良い企画をしてもらいみんな喜んでいて。できれば季節ごとに開催してもらいたい」と感想を述べていた。

当協会では、教材として使用したマップを近隣の中学校や小学校に寄贈したほか、地元の住民に配布している。日常の中で活用してもらい、利用者の声を参考にしながら今後の企画を考えていく。

（総務課）

第50回環境保健夏季大学

【日 時】平成23年7月7日（木）～8日（金）1日目：開始13:00～ 2日目：終了15:00

【場 所】グリーンピアせとうち（呉市安浦町三津口326-48）Tel.0823-84-6624

【対象者】①市町公衛協役員及び事務局担当者で、これまでの夏季大学への参加が5回未満の方。
②市町公衛協事務局活性化事業を実施する公衛協の事務局員および機能リーダー
③研修内容を考慮し、適任と思われる公衛協関係者の方

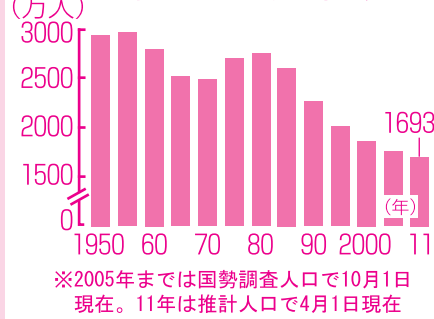
【プログラム】

- ＜1日目＞夏季大学50周年記念フォーラム
「公衛協の歴史といま～時代のニーズを捉えた活動に向けて」
- ＜2日目＞
 - ・平成23年度全県共通事業重点メニュー紹介
 - ・1万人の食チェック事業 おたのしみ抽選会
 - ・講演「広島県が進める健康づくり県民運動」～わたしたちにできること（仮）～
講師：広島県健康福祉局長 佐々木 昌弘氏



昨年のエコトークショーの一幕

子どもの数の推移



※2005年までは国勢調査人口で10月1日現在。11年は推計人口で4月1日現在

男女別では、男子が868万人、女子が825万人で、女子100人に対する男子の数は105.2人だった。年齢別では、中学生（12～14歳）が359万人、小学生（6～11歳）が684万人、3～5歳は324万人、0～2歳は325万人だった。

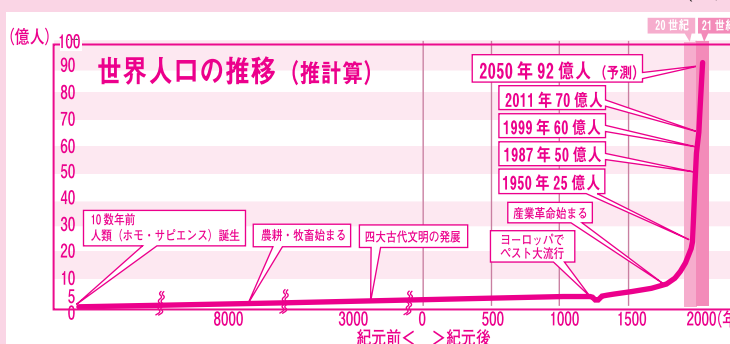
一方、国連人口統計年鑑（2008年版）で人口4,000万人以上（推計時点が00年以降）の国と比較すると、総人口に占める子どもの割合は、ドイツ13.5%、イタリア14.1%、韓国16.2%、中国18.5%、米国20.1%などで、日本は最低水準だった。（5/3）

◆世界人口70億人突破か

国連は、世界の人口が今年10月末に70億人に達し、2050年末までに93億人、2100年までには101億人を超えると予測する「世界人口推計2010年改訂版」を公表した。人口増が見込まれるのはサハラ砂漠以南のアフリカ39カ国や、パキスタンなどアジア9カ国、ボリビアなど中南米4カ国。

一方、日本は70年までに1億人を割り込み、2100年には9133万人になるものの、平均寿命は男性が89歳、女性は95.7歳まで延びると予測している。

（5/8）



世界人口の推移（推計）

2050年92億人（予測）

2011年70億人

1999年60億人

1987年50億人

1950年25億人

産業革命始まる

ヨーロッパでペスト大流行

四大古代文明の発展

農耕・牧畜始まる

10数年前人類（ホモ・サピエンス）誕生

健康感謝募金

～地区衛生組織活動資金募集～

市町別一覧表
（平成23年5月末現在）

健康感謝募金
総額
3,254,858円



かんさうきん けんこうきん

健康感謝募金は、昭和35年から実施し、平成23年度で52回を迎えます。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として地域社会に役立てられています。

【健康感謝募金Q&A】

Q：健康感謝募金ってどのように集められ、管理されているの？

A：健康感謝募金は次のような手順で募金委員会に集められ、記録、配分を行い、公衛協活動に活用されています。



※目標額：50円×世帯数（住民基本台帳による）

市町名	募金額（円）	達成率
東 広 島 市		
三 原 市	1,388,851	64.8
世 羅 町		
尾 道 市		
福 山 市		
府 中 市		
神 石 高 原 町		
三 次 市		
庄 原 市		
そ の 他	81,007	—
合 計	3,254,858	9.1

※この表は、5月末までに市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を示しています。